

【事業実績】

ボードレス・エリア近江八幡 をみんなで作るプロジェクト

1. アートの驚きを共有する 他分野や地域との連携による
障害者の文化芸術の多角的な魅力発信

(1) 複数会場での展示、パフォーマンスプログラムを含んだアートプログラムの展開

「ボードレス・エリア近江八幡芸術祭ちかくのまち」の実施

会期：2021年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

・6人の障害ある作者を含め、11組による 作品 223 点を展示。

(2) 多様な芸術領域のアーティストと障害のあるアーティストによる共同制作

・障害の有無を超えたアーティスト3組によるコラボレーションが実現

(3) パフォーマンスプログラムの実施

「西の湖ほとりに教わるツアー」 出演者：福留麻里

50年以上にわたり、「紐を振る」行為を繰り返す、武友義樹の入所する

福祉施設を福留が訪問し、交流を深める中で生まれたパフォーマンス作品

来館者からのコメント

- ・町と美術がうまく共存していて、居心地がよく鑑賞できた。
- ・町の活用方法を考えるきっかけとなった。
- ・(これまでの) 自分に見えているものが、狭く思いました。
- ・「そんな表現方法があるのか!？」と驚かされることばかりでした。



「ちかくのまち」会場風景



鮎万里絵×谷澤紗和子

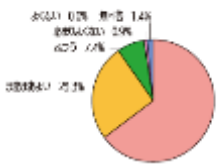


坂本三次郎×椎原保

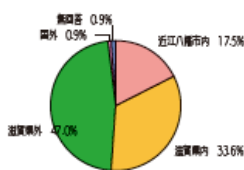


パフォーマンスプログラム

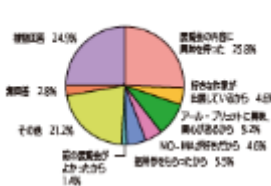
展覧会の印象は?



どちらから?



この展覧会に行こうと思ったきっかけは?



芸術祭「ちかくのまち」会場映像公開

<https://www.youtube.com/watch?v=8pEwquA0ADY>

「ちかくのまち」パフォーマンスプログラム

<https://www.youtube.com/watch?v=eS45AeHhEMw&t=8>

2. 美術作品や町の魅力を楽しむことを当たり前

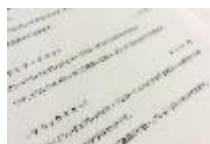
アクセシビリティの地域への拡充と芸術性を伝達するための鑑賞サポート

(1) 情報保障 (点字・音声ガイド等) の地域への拡充

- ・バリアフリーメニューの作成
簡易的な日本語を用いた「やさしいメニュー」に加え、視覚障害者に向けた、「点字メニュー」、「音声メニュー」を作成の上、協力商店 10 店舗に設置。
※実施にあたっては、クラウドファンディングを募った。
- ・地域商店の魅力を伝える音声ガイドの作成
協力店舗の情報を音声で聞くことができる仕組みを整えた。



やさしいメニュー



点字メニュー



美保さん
ガイド
(音声ガイド)

協力店舗からのコメント

- ・障害がある方がお店に来やすくなった
第1回 9月27日
きの対応を考える、よい機会をいただきました。
- ・今までの状態から一歩前進できたような気がします。

障害のある方がお店に来やすくなった
と思いますか?



(2) 作品の芸術性を伝達する鑑賞サポートコンテンツの開発

- ・鑑賞サポートコンテンツの検討会議
障害当事者や専門家と議論を重ね、コンテンツの内容について検討を行った。

検討の流れ

専門家との打ち合わせ

↓

盲ろう当事者、支援者へのヒアリング

↓

↓

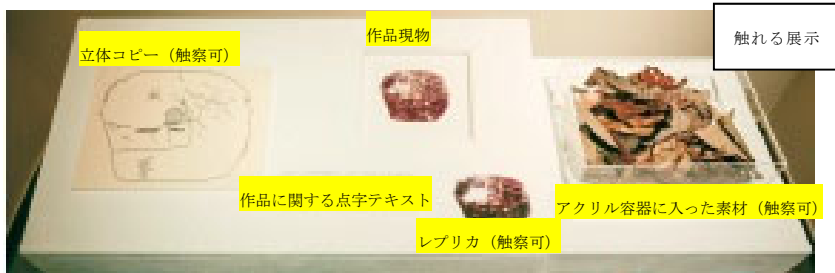


当事者・支援者・専門家の意見

- ・触れることを前提に感染症対応が必要。
- ・盲ろうの人が触れて風景をイメージすることは難しい。
- ・風景は、点字や文章での説明があればイメージできる。

・鑑賞サポートコンテンツの開発

目の見えない人、見えにくい人のために、視覚によらない鑑賞方法をサポートするコンテンツを6つ開発した。これらを活用した鑑賞会を実施し、検証した。



【サポートコンテンツを活用し、盲ろうの人と視覚障害の人、発達障害の人を主な対象とした芸術鑑賞会を実施】



リープモーションを用いた作品拡大表示



展示会場の上面図

【他の取り組み】

- ・美保さんガイドによる音声解説
- ・点字による作者、作品紹介

コンテンツ利用者からのコメント

- ・葉っぱなどを触ったことが一番よかった。
- ・触る写真は複雑な写真だとイメージができなかった。
- ・写真が見えなくて残念。通訳者から説明を聞いてよかった。

3. カルチュラル・デモクラシー（文化的民主制）の実現に向けて

誰もがアートの参画者になるためのプログラム

- (1) 学びの場・交流の場をファシリテート出来る人材を育成するエデュケーション・サポーター
- (2) 情報発信を共働するNO-MA記者クラブの実施
- (3) 会場運営を共働する会場ボランティアの募集

・「ちかくのまち」を舞台に、3種類のサポーターたちと共働

【エデュケーション・サポーター】



参加者：10名 教育プログラム「ちかくのじかん」を企画・ファシリテートを担当

【NO-MA記者クラブ】



参加者：10名 情報発信の担い手となり、取材、発信を行い、取り組みをまとめたニュースレターを制作

【会場ボランティア】



参加者：49名 研修を受講の上、受付業務や会場運営をサポート

(4) ボーダレス・エリア近江八幡アカデミーの開催

・芸術祭に関わるテーマ、アート、障害等について学び、意見交換を行う場として開催



開催の様子

【第1回 9月27日】

- 一限目 ボーダレスを楽しもう、“ちかくのまち”を観光案内
- 二限目 ちかくのまちの歩き方
- 三限目 ボーダレスの生ずるところ

【第2回 10月25日】

- 一限目 障害のある人と作品を作る～武友義樹×福留麻里の共働
- 二限目 ちかくのまちづくり
- 三限目 ザ・ノンテマ・ディスカッション！

参加者からのコメント

- ・ボーダレスをいかになしえるか、考えていきたいです。
- ・ボランティアとして参加しているが、受講したことでより深い理解につながった。

(5) ぼったり床几プロジェクトの展開（継続事業）

(6) 障害当事者、アーティスト、地域住民とめぐる「ぐるり町歩き会」の実施

【ぼったり床几】



【ぐるり町歩き会】

第1回「無視覚流でめぐる！ぐるり町歩き会」
講師：広瀬浩二郎



第2回「ヒラトモさんとめぐる！ぐるり町歩き会」
講師：平野智之（出展者）



語らいの場となるばったり床几。新たに5基を追加。